



### 3. 活動内容

#### (1) 今年度の活動について

##### 1. はじめに

本校では、1・2年は生活科の時間を活用して生き物に慣れ親しむ活動を季節に応じて行い、3～6年は総合的な学習の時間を活用して地域文化や環境調査や環境保全活動を行った。また、日常の教科指導でESDで養いたい能力や態度を意識した学習指導を行った。

##### ① 生き物に慣れ親しむ活動

本校は里山にあたる地域に立地している。しかし、農作物を育てたり、昆虫などの生き物を飼育したりする経験を持つ児童は少ない。そのため、1・2年の生活科では、生き物に触れ合うことを重視して体験活動を行った。



春～秋にかけて、学校菜園でトマトやナスなどの夏野菜やサツマイモなどの野菜を栽培し、収穫した野菜は給食の食材として提供した。また、生活科の活動で調理し、生き物の命をいただいていることの大切さを感じさせた。

また、作物を栽培している周りで見られる昆虫や土中生物の観察を行い、身近にいる生き物への関心を高めた。

##### ② 地域探検

3・4年生は、社会科で自分たちが生活する地域(勝山市・福井県)について学習した。そこで、社会科と総合的な学習の時間を関連させ、自分たちが生活の場としている荒土町について、町内の史跡や地域と結びついている神社、特徴的な地形について見学する校外学習を行った。この地域探検では、情報発信をかねて、3・4年児童の保護者へ参加を呼びかけ、希望する保護者に一緒に体験活動を行った。また、4年生では、



地域の祭りや生き物に関して、調べ学習を行い、地域への関心を高めた。

##### ③ 赤とんぼ調査

5年生は、毎年、米作り体験を行っている。その水田を管理している方の協力を得て、10アール程の水田から羽化する赤とんぼの数を調査した。この活動は、今年で5年目になる。初夏、水田から羽化した赤とんぼにマーキングを行い、秋、標高の高い地域から戻ってきた赤とんぼの産卵を観察した。また、クラブ活動や4年理科の学習で、赤とんぼのヤゴを探したり、捕獲したヤゴの飼育を通してヤゴの生態を観察した。



5年に渡る継続調査により、本校が赤とんぼ調査を行っている水田では、アキアカネとノシメトンボが多く発生していることがわかった。また、年ごとにどちらかのトンボが多く羽化していることがわかった。

④ 外来生物駆除活動

6年生では、校区の中学校（2年生）と連携して外来生物（セイダカアワダチソウ）の駆除活動を行った。この小中連携の駆除活動は2年目になる。本校が立地する地域は、外部から大量の土砂が運び込まれることが少ない。そのため、セイダカアワダチソウなどの外来生物が集中している場所が限られていたが、中学生と協力して駆除することができた。



⑤ ESDで身につけさせたい能力・態度の育成を意識した学習指導

日頃の学習指導において、ESDの視点に立った指導を行うため、年度当初に校内研修を行い、教科の単元の達成目標とESDで身につけさせたい能力・態度と関連づけを行った。初年度となる平成27年度は、個々の教員が得意とする教科（算数や理科、社会など）で関連表を作成し、教科の学習指導を行った。

2. 今年度の成果と課題

低学年は「生き物」、中学年は「地域」への関心を高めるという目的を設定し、高学年は環境を保全活動を行うという目的を設定して体験活動を行ってきた。それぞれの体験活動を通し、自分たちが生活する地域への関心を高めることができた。今後の課題としては、地域への情報発信を強化することがあげられる。郷土愛を育てる体験活動や環境にかんする体験活動は十分に行ってきた。しかし、体験して感じたことを振り返ることで終わっている。次年度は、地域への情報発信と体験活動後の考察を重視して、様々な体験活動を行っていきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

)